



KAMIJIMA KITCHEN

ひじきで洋風
おそうざい

「ひじきとポテトのサラダ」

●材料【2人分】

芽ひじき(乾)・・・大さじ1(5g)
 じゃがいも・・・1個(100g)
 にんじん・・・1/5本(30g)
 きゅうり・・・1/4本
 ハム・・・1枚
 プレーンヨーグルト・・・大さじ1・1/2
 マヨネーズ・・・大さじ1/2
 砂糖・・・小さじ1/4
 塩、こしょう・・・少々

●作り方

- 1 ひじきは水でもどし、さっとゆでて水けを切る。
- 2 じゃがいもは1.5cm角、にんじんは1cm角に切り、かぶるくらいの水でゆでる。水けをとばし、ざっとつぶす。
- 3 きゅうりとハムは1cm角に切る。
- 4 ヨーグルトと調味料を混ぜ合わせ、123を和える。

※ ハムの代わりに、ウインナー・ちくわ・かまぼこ・チーズなどを加えても

上島の文芸

むつみ歌会【岩城】

マスクつけ表情見えぬ人あまた
 しのび寄り来るコロナウイルス
 宮本佳世子

立山の霧氷張りつくななな
 厳冬の山ひっそりとして
 森本 和佳

生前は字を習へよと父の声
 その父眠りし墓の字を書く
 白石 勇

在りし日に世話になりたる友のあて
 弓削瓢柑を亡夫に賜はる
 西本 優子

魚島俳歌柳会

みほとけの慈悲の心を背に感じ
 コロナ疲れに耐へる日々よ
 山元 征子

花の散る気持ちの萎えしコロナ風
 老齡に二人気楽に散る桜
 大林 正憲

魚島は人より多い外灯の明るい島に
 カモメ驚く
 日本中底なし沼のコロナ菌
 新薬とうがい手洗い小まめにと
 全町内に有線流る
 柳 小福

島民は山菜も取り港内は
 鯛 鯖 鰯 釣場もありて
 コロナ菌 離島の航路は客不在
 都市も田舎も人影いずこ
 地球から早く消えてよコロナ君
 手の触れし万葉の桜今ここに
 ウイルスを人の英知で下すのだ
 令和史にコロナの脅威刻むべし
 身土 不二

古い幾つ身体の声を聞いてやる
 海風や桜舞い散る遊歩道
 大潮へ疲れ忘れて磯遊び
 久保かずみ



コロナ菌いつ来るのかと孫の声
 石垣に歴史を残す城の跡
 魚島の美しき海語り継ぐ
 ひまわり

ALT コーナー / 上島町観光協会だより

FISH

皆さん、日本語を英語に訳したことがありますか?学生の時、おそらく誰もが初歩的な文法を教わっている時「this is a pen」を「これはペンです」に訳した経験があると思いますが、魚の名前はどうかね。よく学校で「この魚、英語でなんと言う?」と聞かれたりするけど、これを訳すのは至難の業と言っても過言ではあるまい。あるいは僕はただ自分が思っているより翻訳が下手(笑)

さて、魚の名前を英語にするのは何故そんな困難でしょうか?「普通に魚の名前を英語にすればええやん!」と思っているかも知れませんが、そう簡単ではないですね。何故ならば、日本人と比べたらアメリカ人は魚にたいして無頓着です。というか、英語は日本語ほど細かくない(少なくとも魚類に関しては)と言った方が良いかも知れません。例えば、「鰻」と「穴子」とあるじゃないですか?いささか高価であることをさて

において、どちらも美味しくて個人的に好きです。日本人ならばこの二つの違いが解ると思いますが、英語にするとどちらもeelになってしまいます。ニュアンスが失われるわけですね。外食する時はまさにそうです。レストランのメニューを見て魚料理は魚の種類に関わらずなんでもかんでもがfishになってしまう事実を知れば日本人は驚愕するでしょう。

ところで、その逆パターンもあります。来日してから魚の種類豊かさに驚きました。アメリカにいた頃は基本salmon(鮭)とtilapia(検索してみたところ日本語で「ティラピア」というらしく)しか食べていなかったの、魚介類に精通しているとは到底言い難かったわけ。ところが日本の寿司屋に行けば、まぐろやさば、かんぱちを始めとして、

弓削 月 19:30 ~ 弓削地域交流センター
 生名 月 9:00 ~ 3分団集会所
 岩城 木 20:00 ~ 岩城総合支所庁舎
 魚島 水 19:30 ~ 魚島開発総合センター

数えきれない種類の魚とその異なる風味や触感を愉しむことができます。

弓削に来島して以来、給食の放送での献立説明だの、町民が丁寧に教えて下さる魚介類豆知識だの、常々魚介類について色々学ばせていただいています。非常に勉強になっています。まだ魚の知識は全然ですが、一つ言えるのは、上島町・瀬戸内海の魚は旨い!



今月の担当ALT
パレキ・シヨサン 弓削

わたしの 上島旅

— 第18回 —
今月の旅人



佐藤 裕介さん(34)
岩城在住

2年前、二人の“柑橘が育てられる場所と住む場所探し”がスタート。「海が見える所に住みたいね」と広島から山口・福岡・長崎・熊本・宮崎・高知・徳島・香川、そして愛媛の岩城に辿り着いた。

岩城は、レモン栽培が盛んで、海に囲まれていて少し車を走らせただけで、そこら中がビューポイント。ワーキングホリデーの制度を利用し、農家さんのもとの“農業”と“暮らすこと”の体験をさせてもらった。

数々の人たちの話を聞き、体験をしてきたが、移住先探しも終わり。さあ、どこに住もうか。

二人で考えた結果、2018年7

月に岩城に移り、籍を入れた。決め手は、“人”。

岩城での体験中、農家さんたちは、私たちの未来を想像し、そのためにどんなサポートができるかを考え、まだ移住するかも決まっていなかったのに農業をする人として、住人として、親身に話し、導いてくれた。

息子も産まれ、今年で移住して2年。まず農業人として自立することが第一だが、この島の人たちに導いてもらったように、私たちも魅力ある人になっていきたい。

上島町観光協会 各種お問い合わせ ☎72-9277 www.kamijima.info